

広島別院だより

Vol.52
春号

真宗大谷派（東本願寺）
広島別院教化委員会

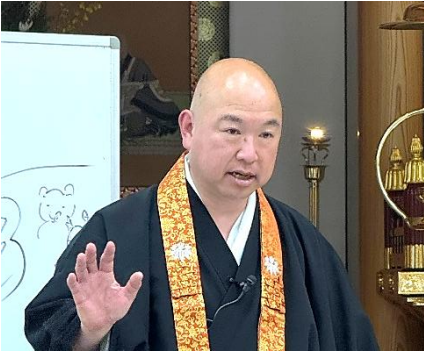
発行

春彼岸会が勤まる

三月二十三日に広島別院明信院にて春彼岸会が勤まりました。講師は福山市の三須誠氏（備後組寶田院）です。以下、法話の抄録です。

様々なご縁の中で、皆さんはお寺にお参りをされているだろう。私も「どうぞお参り下さい。元気なうちは足を運び、仏様に向き合い、ご法話を聴聞してください」とお誘いする。お参りされる方もおられるが、何かと理由を付けて足が向かないという人もあるのではないだろうか。ただ、できれば聞法の場に足を運んでほしい。それはお寺のためではなくて、その人、一人ひとりのためであると常々思う。

お彼岸は『仏説観無量寿経』の「日想観」に由来する。太陽が真東から昇り真西に沈んでいく時に勤める仏事がお彼岸である。夕日が沈んでいく果てに、彼岸、極楽浄土があり、そこにたくさん有縁のご先達方がおられることを追慕するというのが仏教の一般的な受け取りである。それに対して浄土真宗では亡き人を縁として仏法を聞くことを大切にしてきた。聞法の中で私自身が此岸、つまりこの世で迷って



三須 誠氏

いる身であり、迷いの此岸から悟りの彼岸へと渡らしめくださる阿弥陀如来の慈悲を讃嘆し、他力本願をいただいていることに気づかされていく。まず私たちが一人ひとりが出遇わなければ始まらないのである。それが浄土真宗のお彼岸の受け取り方であると思う。

七高僧のおひとりの善導大師がお作りになられた『往生礼讃偈』を春彼岸会でお勤めした。その冒頭で「南無至心帰命礼 西方阿弥陀仏 願共諸衆生 往生安楽国」と善導大師は述べられている。これは善導大師の願生浄土への強い勧めの気持ちの表れである。「さあ、皆さん一緒に行きましょう」と言っておられる。今回、善導大師のことを学ばせていただく中で、善導大師の強い勧めを受けた私自身が強く浄土を願い、弥陀の他力本願をいただく縁になればと思う。それが『往生礼讃偈』の初夜偈で善導大師が説かれている「自信教人信」のまことを尽くして如来の大悲をいただくということであろう。

大谷派でお勤めする『往生礼讃偈』の最後には「吾今不去待何時」とある。善導大師は「浄土へ今、行かずして、いつまでその時を待つのか」



か」と強く問いかけておられる。いつ行くのですかということは、今しかないということだ。浄土莊嚴を表すそれぞれのお寺で聞法のご縁がある時は、ぜひお参りしていただきたい。「お寺にいつ行くの？今でしょー！」

広島別院 団体参拝

四月二十日、山陽四国教区西讃組の靖国問題学習会が広島で開催されました。この度は、昨年の被爆八十周年を受けて、「非核非戦のつどい 戦後八十周年広島現地研修」として開催されました。

午前中、別院に参拝した参加者は被爆体験証言者の切明千枝子氏による被爆証言を聞き、午後は平和記念公園を訪れ、平和記念資料館や原爆ドームを見学しました。西讃組の皆様、ご来院誠に有難うございました。



親鸞聖人の生涯を辿る

最終回

還浄(げんじょう)

弘長二年(一二六二)、親鸞はだんだんと床に臥せることが多くなつたそうです。そして世事は一切語らず、阿弥陀仏の御恩の深き事を喜び、もっぱら念仏を称えるばかりとなりましたが、ついに十一月二十八日に念仏の声も消え、九十年間の生涯を終えました。

親鸞の最期を看取った娘の覚信尼は親鸞の死について、あんなに立派だった父が死に際して奇瑞(高僧などが亡くなる時に起きる不可思議な現象)が起きなかつた、父はお浄土へ行けたのだろうかとの恵信尼に手紙を送っています。それに対して恵信尼は、親鸞が浄土往生したことは疑いなく、かつて親鸞が往生の法を求めて法然と出会い、念仏しかないということを確信した事や、恵信尼自身の夢の中で、勢至菩薩の化身である法然とともに親鸞が観音菩薩の化身として現れたことを記し、子として臨終に会えたことは喜ばしいことだと述べています。

吉水時代より親鸞を一番近くで見てきたであろう恵信尼にとつて、親鸞の生涯はまさしく人々を教え導く菩薩のような人だったのでしょう。

法座・講座等のお知らせ

6月6日(土) 仏教入門講座 (第2シーズン)



【講師】 真城義麿 先生

【日程】 毎回 13:30～16:00 【会費】 500円

〈日常生活の様々な疑問を仏教に学ぶ講座です。ぜひご参加ください。〉

7月6日(月) 非核非戦法会兼原爆死没者追弔会

【講師】 三重教区 西恩寺 池田 徹 師

【日程】 14:00～勤行と法話
16:30 終了予定

〈非核非戦法会兼原爆死没者追弔会をお勤めいたします。仏教の視点から戦争の問題などについて語られます。お誘いあわせの上お参りください。〉

毎月5日 定例法話 (ご今日の集い)

【講師】 県内僧侶(月替わり) 【日程】 14:00～勤行と法話(15:00 終了予定)

〈広島別院開基 教如上人の御命日(毎月5日)に法話会があります。〉

道場樹 (編集室より)

今年の一月から三月の二か月間 本山(京都 東本願寺)に列座研修として行かせていただいたておりました。

内容としては日々のお給仕など基本的なことを学ばせていただきました。常にご参拝されている人がいる中で緊張感をもってに研修に取り組んで参りました。頭の中では「一つ一つ丁寧に」という思いで取り組んでおりましたが、思いと体の方は異なっていたのか「もう少しゆっくり丁寧に」という言葉を頂きました。大事な時こそ普段が出るとはよく言いますが、疎かに日常を送っていたんだな、ということを感じさせられました。

研修を通して、作法の知識などももちろんですが、本山で実際に体を動かすことで、逆に普段の自分の姿が改めて見つめ直される期間となりました。期間を終了し、広島に戻っても「本山で何を学んできたんや」と言われてしまうこともありますが、もともと「日常」というところに目を向けた生活を送っていければと思います。

(Y・T)

